

事前意見・提案について（奥本委員）

意見①

今後もこのような色々な対象者からのヒアリングを定期的に行い、ニーズ調査では拾えない現場の声を聞くべきだと思います。

（回答）

子育て支援を実施している各団体や療育を利用しておられる子どもの保護者、ひとり親などの子育て当事者等からのヒアリングにつきましても重要であると考えております。今後、必要に応じて実施してまいります。

意見②

■地域子育て支援センターヒアリング要点録

○子どもの発達の遅れに気づく母親もいれば、そうでない母親もいる。グレーゾーンの子どもの母親へどう伝えるかが難しい。

○集団の場に出たくない・出られないお母さんへの発信方法について検討が必要。

■地域子育て支援センターヒアリング要点録

○親子教室に来ていた子どもの中に、発達に関してグレーゾーンで、また母親も心配性で親子の関わりが大変心配な状態の親子がいた。こども健康センターに1歳8か月健診で診断を受けていないか問い合わせたが、「個人情報なので答えられない。」と電話を切られた。連携したくて連絡したのにも関わらず、連携できず、フォローもきちんとできないままで、その後の状況がわからない。連携と言われるが、具体的にどうやって動けば良いのか、どこまでが連携なのか疑問に感じている。

発達に遅れのあるこども・親に対してのアプローチ方法、具体的に現状で検討されている案を教えてください。

（回答）

発達に課題があるにもかかわらず、親が受容できず療育につながらない親子が、気軽に療育を体験できる機会を設定することを検討しています。

意見③

■あけぼの学園ヒアリング要点録

○市コメント

保護者が発達に課題があることを受け入れず、情報を求めているのに、市から先々を見通して情報提供するという事は難しい。

例えば、すでに受容している親を集めヒアリングするなどはどうか？実際に経験している親ならではの意見から模索するのは有効だと思います。あけぼの学園親の会でも協力できます。

（回答）

受容の過程を実際に経験された保護者の体験から、どのように保護者にアプローチすれば受容に結びつくかを検討させていただくことはとても有効な手段と思われるので、その際にはご協力をお願い致します。